

環境問題に関する世論調査

内閣府大臣官房政府広報室公表

この調査は、環境問題に関する国民の意識を把握し、今後の参考とするために平成 21 年 6 月に行ったものである。

全国 20 歳以上の男女 3,000 人を対象とし、層化 2 段無作為抽出法にて実施した。有効回収(%)は、男性 60.2%、女性 67.6%であった。

1) 循環型社会に関する意識

(1) ごみの問題への関心

ごみ問題にどの程度関心があるか聞いたところ、「関心がある」とする者の割合が 92.4%（「非常に関心がある」 29.0%+「ある程度関心がある」 63.5%）、「関心がない」とする者の割合が 7.5%（「あまり関心がない」 6.4%+「まったく関心がない」 1.1%）となっている。前回の調査結果（平成 13 年 7 月調査）と比較して見ると、「関心がある」（89.8%→92.4%）とする者の割合が上昇している。性別に見ると、「関心がある」とする者の割合は女性で高くなっている。年齢別に見ると、「関心がある」とする者の割合は 60 歳代で高くなっている。

(2) 3R の言葉の認知度

「3R」の言葉の意味を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」と答えた者の割合が 29.7%、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」と答えた者の割合が 23.6%、「聞いたこともない」と答えた者の割合が 45.0%となっている。都市規模別に見ると、「聞いたこともない」と答えた者の割合は小都市で高くなっている。性別に見ると、「言葉の意味を知っている」と答えた者の割合は男性で高くなっている。年齢別に見ると、「言葉の意味を知っている」と答えた者の割合は 20 歳代から 40 歳代で、「聞いたこともない」と答えた者の割合は 60 歳代、70 歳以上で、それぞれ高くなっている。

(3) 普段の暮らしの中でのごみとの関わり方

日頃の暮らしの中で、ごみとどのように関わっているか聞いたところ、「ごみの問題は深刻だとは考えず、多くのものを買ひ、多くのものを捨てている」と答えた者の割合が 1.7%、「ごみの問題は深刻だと思いながらも、多くのものを買ひ、多くのものを捨てている」と答えた者の割合が 10.8%、「ごみの問題は深刻だと考え、多くのものを買ったり、多くのものを捨てたりしてはいいないが、ごみを少なくする配慮やリサイクルも実施していない」と答えた者の割合が 19.2%、「ごみの問題は深刻だと考え、ごみを少なくする配慮やリサイクルを多少意識して実施している」と答えた者の割合が 52.2%、「いつも、ごみを少なくする配慮とリサイクルを実施している」と答えた者の割合が 14.9%となっている。都市規模別に見ると、

「いつも、ごみを少なくする配慮とリサイクルを実施している」と答えた者の割合は小都市で高くなっている。性別に見ると、「ごみの問題は深刻だと考え、多くのものを買ったり、多くのものを捨てたりしてはいいないが、ごみを少なくする配慮やリサイクルも実施していない」と答えた者の割合は男性で、「ごみの問題は深刻だと考え、ごみを少なくする配慮やリサイクルを多少意識して実施している」と答えた者の割合は女性で、それぞれ高くなっている。年齢別に見ると、「ごみの問題は深刻だと思いながらも、多くのものを買ひ、多くのものを捨てている」と答えた者の割合は 20 歳代、30 歳代で、「いつも、ごみを少なくする配慮とリサイクルを実施している」と答えた者の割合は 60 歳代、70 歳以上で、それぞれ高くなっている。

(4) ごみを少なくするためにやっていること

日頃、ごみを少なくするためにやっていることはあるか聞いたところ、「詰め替え製品をよく使う」を挙げた者の割合が 63.3%、「レジ袋をもらわないようにしたり（買い物袋を持参する）、簡易包装を店に求めている」を挙げた者の割合が 62.0%と高く、以下、「すぐに流行遅れになったり飽きたりしそうな不要なものは買わない」（43.6%）、「買いすぎ、作りすぎをせず、生ごみを少なくするなどの料理法（エコクッキング）の実践や消費期限切れなどの食品を出さないなど、食品を捨てないようにしている」（40.6%）、「壊れにくく、長持ちする製品を選ぶ」（38.6%）、「壊れたものは修理して何度も使う」（36.8%）などの順となっている。

前回の調査結果（平成 17 年 9 月調査）と比較して見ると、「詰め替え製品をよく使う」（55.0%→63.3%）、「レジ袋をもらわないようにしたり（買い物袋を持参する）、簡易包装を店に求めている」（31.9%→62.0%）、「すぐに流行遅れになったり飽きたりしそうな不要なものは買わない」（36.9%→43.6%）、「壊れにくく、長持ちする製品を選ぶ」（31.7%→38.6%）、「壊れたものは修理して何度も使う」（29.4%→36.8%）を挙げた者の割合が上昇している。都市規模別に見ると、「詰め替え製品をよく使う」、「すぐに流行遅れになったり飽きたりしそうな不要なものは買わない」を挙げた者の割合は大都市で高くなっている。性別に見ると、「詰め替え製品をよく使う」、「レジ袋をもらわないようにしたり（買い物袋を持参する）、簡易包装を店に求めている」、「すぐに流行遅れになったり飽きたりしそうな不要なものは買わない」、「買いすぎ、作りすぎをせず、生ごみを少なくするなどの料理法（エコクッキング）の実践や消費期限切れなどの食品を出さないなど、食品を捨てないようにしている」を挙げ

た者の割合は女性で高くなっている。年齢別に見ると、「詰め替え製品をよく使う」を挙げた者の割合は 30 歳代、40 歳代で、「レジ袋をもらわないようにしたり（買い物袋を持参する）、簡易包装を店に求めている」を挙げた者の割合は 40 歳代で、「買いすぎ、作りすぎをせず、生ごみを少なくするなどの料理法（エコクッキング）の実践や消費期限切れなどの食品を出さないなど、食品を捨てないようにしている」を挙げた者の割合は 60 歳代、70 歳以上で、「壊れにくく、長持ちする製品を選ぶ」を挙げた者の割合は 50 歳代で、「壊れたものは修理して何度も使う」を挙げた者の割合は 60 歳代で、それぞれ高くなっている。

(5) 再利用や再生利用のためにやっていること

日頃、ごみや、一度使ったものが再利用、再生利用がされやすいように、やっていることはあるか聞いたところ、「家庭で出たごみはきちんと種類ごとに分別し、定められた場所に出している」を挙げた者の割合が 84.1%と最も高く、以下、「リサイクルしやすいように、資源として回収されるびんなどは洗っている」（68.9%）、「トレイや牛乳パックなどの店頭回収に協力している」（48.5%）、「古着を雑巾とするなど、不要になったものでも他の目的で使用する」（47.7%）などの順となっている。

前回の調査結果（平成 17 年 9 月調査）と比較して見ると、「リサイクルしやすいように、資源として回収されるびんなどは洗っている」（63.9%→68.9%）、「古着を雑巾とするなど、不要になったものでも他の目的で使用する」（41.9%→47.7%）を挙げた者の割合が上昇している。都市規模別に見ると、「トレイや牛乳パックなどの店頭回収に協力している」、「古着を雑巾とするなど、不要になったものでも他の目的で使用する」を挙げた者の割合は大都市で高くなっている。性別に見ると、「家庭で出たごみはきちんと種類ごとに分別して、定められた場所に出している」、「リサイクルしやすいように、資源として回収されるびんなどは洗っている」、「トレイや牛乳パックなどの店頭回収に協力している」、「古着を雑巾とするなど、不要になったものでも他の目的で使用する」を挙げた者の割合は女性で高くなっている。年齢別に見ると、「家庭で出たごみはきちんと種類ごとに分別して、定められた場所に出している」、「トレイや牛乳パックなどの店頭回収に協力している」を挙げた者の割合は 40 歳代、50 歳代で、「リサイクルしやすいように、資源として回収されるびんなどは洗っている」を挙げた者の割合は 40 歳代、60 歳代で、それぞれ高くなっている。

次ページへ続く...